

【高校生】子供の荒れた行動に3H(批判・非難・否定)はNG！

中学時代よりもっと、同世代の集団の中での位置取りが重要になっている時期です。集団の中での位置取りがうまくいかず、「地団太を踏むように」荒れた言動を家庭で出している場合があります。

自分の部屋の中で荒れている場合はまだ大丈夫。「家族に迷惑をかけないように」という理性が働いているので大丈夫です。落ち着いて見守りながら、チャンスを見つけて話を聞きましょう。

あまりに大きな声や、自分の部屋以外、家が壊れるぐらいになっているなら、「周囲を不愉快にしている」などと「辞めてほしい」ことを伝え、注意はするけれど、「きっと何かあるのだろうと思う。言えそうなら聴くよ！」「言えるようになったら、声かけてね。」という、親は子供の気持ちを聞くスタンスであることも必ず伝えてください。

高校生といえども、ただ禁止するだけでは、子供は親の言葉を「批判・非難・否定」と受け取り、理解されていないというもどかしさから、なおさら、言動が荒れてしまうでしょう。

親の発する3H(批判・非難・否定)は、子供から、反抗の言葉3D(でも・だって・どうでもいい)を導き出すだけで、解決にはつながりません。大人になっている親ですら、他人から理由も聴いてもらえずに批判・非難・否定されたら、「誰も分かってくれない！」という気持ちになり、荒れてしまう人もいるかもしれません。

子供には、厳しい対応はするけれど本人の気持ちを受け止めるという、ベクトルの異なるこの両方が大事です。

執筆：認定特定非営利活動法人育て上げネット 「結」相談員 森 裕子・墓田 薫

「ニート・ひきこもりの子をもつ親の会『結』」
(運営：認定特定非営利活動法人育て上げネット)

若者の「働く」と「働き続ける」を実現するために、若年無業者就労基礎訓練プログラム「ジョブトレ」など、多方面からの支援を行っている「認定特定非営利活動法人育て上げネット」の活動の一つで、親をサポートするための会。1か月ごとの定期相談やすぐ実施できる「接し方・伝え方」ワークショップ、親同士の気軽な茶話会などを提供している。

